



長野県民生児童委員だより

つなぐ

Vol.156

2024 Autumn

令和6年10月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 松嶋 隆徳

編集人 広報委員会
委員長 荒深 たつ子

〒380-0936
長野市大字中御所字岡田98番地1
(長野県社会福祉協議会内)

特集

知っておきたい! 県の発達障がい児・者支援施策が充実

Contents

- ◆ 特集
知っておきたい! 県の発達障がい児・者
支援施策が充実 2~5
[長野県発達障がい情報・支援センター“といる”]と
[発達障がいサポート・マネージャー]
- ◆ 民児協訪問
木曾町三岳地区民生児童委員協議会 6
佐久市野沢地区民生児童委員協議会 7
- ◆ 令和6年度 民生委員・児童委員の日
活動強化週間の取組 8
- ◆ 新しい役員体制決まる 8

長野県発達障がい情報・支援センター “といる”

と 発達障がいサポート・マネージャー

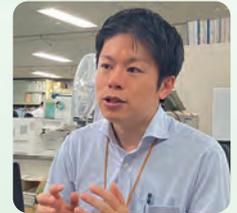


児童委員としての活動の中で、「発達障がい」について相談されるケースも出てきました。そこで今回は、知っておくと心強い県の制度の概要と、全県に配置されている「発達障がいサポート・マネージャー（通称サポマネ）」について県担当者をはじめ関係者にインタビューしご紹介します。

精神科医の本田秀夫医師の専門は発達精神医学、2人の副センター長

と語ります。

「といる」を核に医療と教育と福祉の連携で途切れなく支援できる体制
 長野県発達障がい情報・支援センターは、十人十色の多様性が認められる社会を願って「といる」と名付けられました。それまでの県直営から、松本市にある信州大学医学部附属病院に委託されたのが昨年の4月。全国的にも例のない医療機関への委託理由を玉井係長は「医療と教育と福祉の連携が必要」「エビデンスに基づいた情報提供のため」「人材育成と情報発信強化」と語ります。



長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課次世代支援係 玉井慎市郎係長

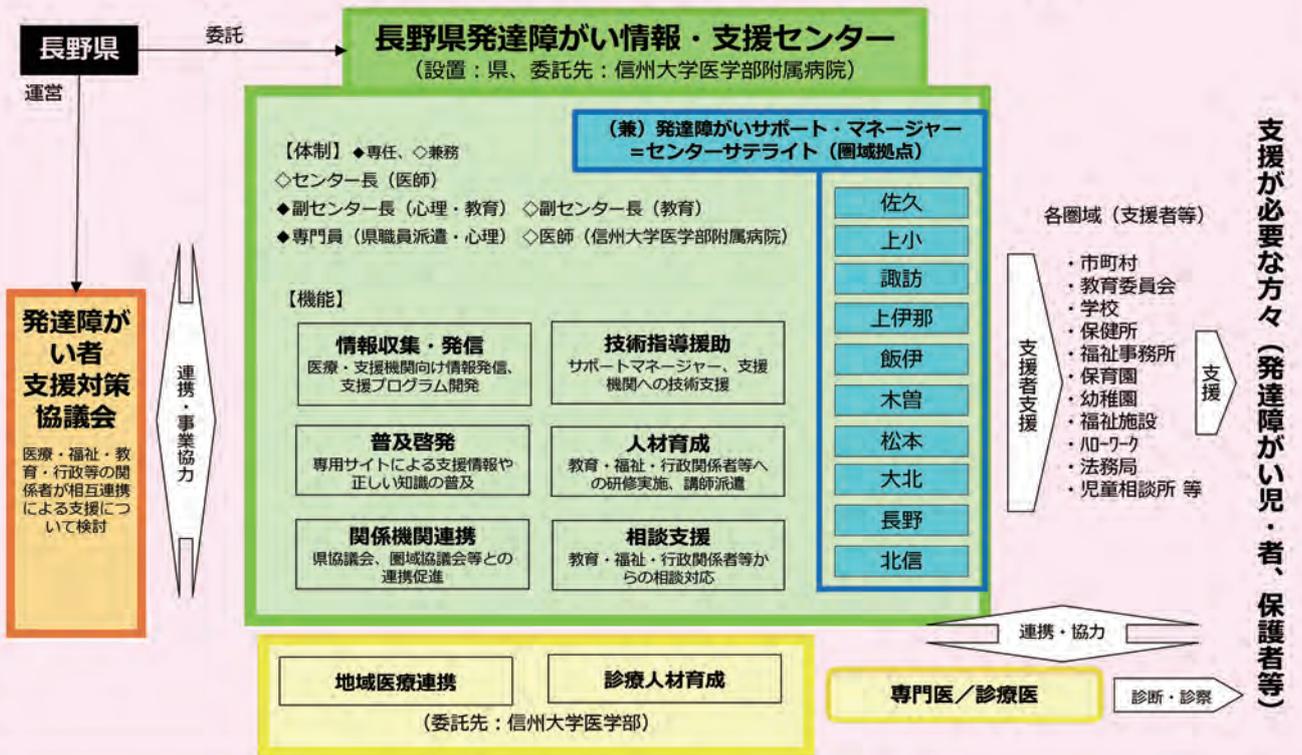
障がいを防ぎ、十人十色の特性を活かして暮らせる社会の実現に向かっています。

長はそれぞれ特別支援教育と心理学に精通と、教育を含めた幅広い分野をカバーできるのが特徴です。6年程前に庁内の所管を次世代サポート課に移したのも、医療、教育、福祉と、分野や年齢ごとに適切に調整して行うため、幼児期から成人まで発達の特性に合わせた支援ができる体制に再編されたのです。

◆キーワードは早期発見、早期支援

不登校やフリースクールも担当する県の次世代サポート課の所管になったもう一つの理由は、発達の特性を早期発見して早期支援につなげるためです。それにより、成人してからうつ病などの二次障がいを防ぎ、十人十色の特性を活かして暮らせる社会の実現に向かっています。

長野県における発達障がい児・者の支援体制



◆研修による人材育成

といるの重要な役割の一つに「人材育成」があります。といるの医療職員は信大医学部「子どものこころの発達医学教室」との兼務であり、対面やリモートなどで多くの研修会を行っておりあります。

また市町村向けの担当者連絡会（研修会）は、全県から教育や福祉など分野を超えた関係者が集まり、発達障がいに関わる様々な情報を共有し、専門性を高める機会となっております。

民生児童委員も「支援者」の立場です。玉井係長は「研修などを希望する場合はセンター、あるいは直接サポートマネに連絡を」としています。

◆「発達障がい」って?

発達障がいという言葉が以前よりもよく聞かれるようになった現代ですが、発達障がいとは次のように定義されています。

発達障がいとは、発達の過程で何かしらの問題が生じる状態のことで、原因は生まれつきの何かしらの生物学的な理由によるものの総称とされて

います。近年は、「障がい」とは本人の状態と環境との兼ね合いによって、生活のしづらさにとどの程度の影響があるかによって言われています。

◆発達障がいサポートマネージャー(通称サポートマネ)とは

発達障がい者及びその家族が地域に必要な支援を受け、将来の見通しをもって安定した社会生活が送れるよう、地域における乳幼児期から成人期までの一貫した支援の連携体制を構築するため、県が平

～「発達障がい」を知ろう～

長野県 (監修：長野県発達障がい者支援対策協議会)

理解のポイント

- 生まれつき脳の機能(働き方)に偏りがある
- 「障がいがある」ということが理解されにくい
- 「性格の問題」や「怠け」というように誤解されやすい

どんなことが出来て、どんな苦手があるのか。ご本人に目を向けて、向き合うことが大事です。

代表的な「発達障がい」

自閉スペクトラム症 ASD
 ● 孤独感や対人関係が苦手
 ● 場の空気を読み取れない(男)
 ● こだわりが強い(手帳にこだわる、等)

注意欠如・多動症 ADHD
 ● 不注意(つっかきミスが多い、等)
 ● 多動性・衝動性(じっと座っていられない、等)

学習障害 LD
 ● 「読み」「書き」「計算」が苦手

※ほかにも、運動症、チック症、コミュニケーション症などの種類があります。
 ※詳細情報は、アメリカ精神医学会のDSM-5を中心に、現在わかれている範囲で表記しています。

こんな誤解があるかもしれません

わがままな子
 親の愛情不足

親のしつけが
 なってない
 本人の努力不足

誤解によって、つらい思いをして悩んだり、社会から孤立して困っているご本人やご家族がいます。

長野県発信！
 発達障がいを知ろう-基本動画
 /次世代サポート課

長野県発達障がい情報・支援センター「といる」センター長で信州大学医学部教授の
本田秀夫医師 から 民生児童委員に向けてのメッセージ

早期発見で二次障がい防止を

コミュニケーションの中に、孤立している、なんとなく馴染めていないと気になるご家族、お子さんを見かけた時に、もしかしたら背景に障がいがあるのかもしれない、と考えていただくことは大切です。何らかの発達障がい、知的障がいのある人は10人に1人、あるいは子どものうちだと10人から6人に1人というデータもあり、決して珍しいことではないからです。

民生児童委員さんが気づくのは地域の中で表面化してからの多いと思いますが、例えば乳幼児検診で発見されたら母子保健につながりますし、教育段階なら学校からというふうに早期発見ができると、適切な対応をすることで大人になってからの不適応、いわば二次障がいを防げる可能性が高まります。以上のことを念頭においていただけるといいかなと思います。

今は、各市町村でも子ども頃から発見できる態勢が整いつつありますが、行政の方々は人事異動がありますので深い経験、知識を求めるわけにいきません。その点、サポートマネの方々には長期にわたって関わる事ができますから、地域における発達障がいの状況を把握していくことができます。

成25年度から随時県内10の圏域に1人ずつ配置しています。

令和5年度からは「発達障がい情報・支援センター」にも兼務

サポートマネ業務の2つの柱は以下のとおりです。

「支援者への直接的な支援」

してきます。
 (10圏域のサポートマネのP4の表参照)

サポートマネ業務の2つの柱は以下のとおりです。

「支援者への間接的な支援」

支援者からの相談受付及びチームアプローチに向けた支援
 □一歩に向けた支援
 地域づくり、ネットワーキングの支援

発達障がい
サポート・マネージャー
(通称サポマネ)からの
メッセージ

長野県を10人でカバーするサポマネの皆さんを代表して、3人の方に現場からの声を伝えていただきました。



松本圏域担当
社会福祉法人 信濃の郷
新保 文彦 さん
(5ページ集合写真
後列右から3人目)

「8050問題」を介して間接的に民生委員・児童委員さんと関わる

民生委員・児童委員の皆様初めまして松本圏域(松本市・安曇野市・塩尻市・朝日村・山形村・筑北三村)を担当しております。サポマネの新保文彦です。

私が、皆様と直接お会いして、一緒に問題解決や対処方法などの相談を受け活動したことはありませんが、間接的に多く関わったケースが「8050問題」です。

この問題こそ、皆さんの早期発見のおかげで、行政に連絡が入り対応することができ、最悪のケースを免れています。しかし発見後も新たな問題が次から

次へと噴出し困難な状態が継続します。80代の親御さんがいきなり病气や事故で倒れたことで、日常生活が予期せぬ崩壊になり、家族の今後の生活をどうしたらいいか、行政職員や保健師さんが50代の息子さんや娘さんに尋ねますが、まったく反応してくれない、一言も言葉がかえってこない、通じないコミュニケーションの問題に直面し、関係者が頭を抱えます。

長期間にわたって親としか話した経験がないので、初対面の人とのコミュニケーションがでない息子さんや娘さんがパニック状態に陥り、行政職員や保健師さんから「どう声をかけたらいいか?」「どんな対応をしたらいいか?」など相談を受けます。サポマネの支援者支援の一例です。このケースでは、発達障がいの方々に使う「視覚支援」を提案します。私達が毎日使う話す言葉は形に残らず消えます、話したことを紙に書く、書くことで「カタチにして見える状態」にして理解を促す道具になり、次の一歩へ進むきっかけになります。

皆さんが、「あれ?」と思うケースは、ぜひ行政へ相談をいただければ、間接的にサポマネが支援できますので今後とも支援を宜しく願っています。



上小地区担当
上小圏域障害者
総合支援センター
佐藤 永寿子 さん
(5ページ集合写真
前列右から1人目)

発達障がいを正しく知ってもらえる機会を

学生時代のサークル活動で出会った自閉症の女の子の、思いもよらない発想や詩的な言葉に魅了され、もっと知りたいと障がい児支援に興味をもったのがこの道に入るきっかけでした。

その後、重度知的障がい者の入所施設で指導員として働いていました。入所している人の中には、自閉症の特性をもつ人もいましたが、当時はまだまだ自閉症の特性について未知なことが多々ありました。

今、上小圏域障害者総合支援センターに勤務するようになり、乳幼児健診後のフォローアップ教室を担当し、特性があるかもしれないと思われるお子さんを育てるお母さんの孤立感や不安感に寄り添うことの大切さを知りました。子育ての大変さに加えて、「どこに遊びに連れて行っても、謝ることばかりで疲れます」と、話してくれたお母さんのことばの通り、地域の理解がまだ十分でないということを感じました。



【写真上】発達障がいサポート・マネージャー連絡会を7月17日に開催した様子
【写真下】佐久市浅間地区民児協で7月19日に行った発達障がいに関する研修(講師はサポマネの矢島克美さん)

発達障がいサポート・マネージャー (令和6年度)

圏域	所属	氏名
佐久	社会福祉法人 小諸学舎	矢島 克美
上小	上小圏域障害者総合支援センター	佐藤 永寿子
諏訪	諏訪圏域障がい者総合支援センター オアシス	茅野 進
上伊那	上伊那圏域障がい者総合支援センター ざらりあ	松田 佳大
飯伊	飯伊圏域障がい者総合支援センター ほっとすまいる	堀内 克敏
木曾	NPO法人 コスモス	武居 竹生
松本	社会福祉法人 信濃の郷	新保 文彦
大北	大北圏域障害者総合支援センター スクラム・ネット	二木 むつみ
長野	社会福祉法人 森と木	岸田 隆
北信	北信圏域障害者総合相談支援センター ぱれっと	坂爪 麗子

※研修などに関するお問い合わせは
長野県発達障がい情報・支援センターというまでお問い合わせください



長野県発達障がい情報・支援センターのスタッフ
(7月17日サポマネ連絡会で撮影)

地域を俯瞰する立場からの 困り感が支援につながる

平成6年4月に、長野市で小さな民家を借り受けてレスパイトケアを行う福祉事業所を始め



長野圏域担当
社会福祉法人 森と木
岸田 隆 さん
(5ページ集合写真
後列左から1人目)

サポマネになって8年目になります。民生児童委員さんの研修会でお話をする機会をいただくこともあります。発達障がいの普及・啓発に力を注ぎたいと思っています。

ました。レスパイトケアとは、障がいのある人と暮らす家族を介護から一時的に開放することで、障がいのある人と家族の関係を良好なものにしていくものです。その当時の利用者は特別支援学校に通う児童がほとんどでしたが、利用者の半数は重度の知的障がいを伴う自閉症の子どもたちでした。その後、その子たちが特別支援学校高等部を卒業する時期に合わせるように、通所施設やグループホームなどの設置を進めてきたというのが私の仕事のルーツです。

障がい者福祉に関わる仕事をしていく中で、それまでの知的障がいのある人たちとは違うタイプの方と出逢うことが次第に増えていきました。それが発達障がいのある人たちでした。地域や家庭や福祉施設でのトラブルがきっかけで相談につながるケースの多くが発達障がいのある人の家族や地域の方からの相談でした。平成25年4月に長野県が発達障がいサポート・マネージャーを事業化するのに合わせてお引き受けし、今年度で12年になります。

この間、様々な発達障がいに関する相談をお受けしました。学校、行政、病院はもとより、企業からの相談、警察や弁護士などの司法関係からの相談など

支援機関も様々です。その中で、それほど件数は多くないのですが、民生児童委員さんからのいくつかの相談ケースは強く印象に残っています。民生児童委員さんが地域で動く中で、本当に困ったケース、いろいろな手を尽くしても解決しないケースを抱え、多くの関係機関を巡り巡ったところでようやくサポマネにつながるからだろうと思います。サポマネにつながる段階ではかなり複雑化した状況になっていることから、強く印象に残るのだと思います。

まずは、今、社会的に大きな課題になっている、ひきこもりの問題です。ただ、民生児童委員さんからつながるひきこもりの問題は、静かに自宅にひきこもっているケースではなく、地域で何らかのトラブルになっているケースがほとんどです。地域住民とのトラブルや家庭内での暴力で母親が大ケガをしたなど深刻化したケースです。ある自閉症の方のケースでは小学校から不登校でそのままひきこもり状態が続き、成人した以降も全く行政が関与できずに、家の中の壁は穴だらけ、家庭内で親子お互いに暴力の繰り返しで、近所からも家の中からの叫び声がうるさいといった苦情が上が

り、民生児童委員さんも困り果

てて相談に來られました。相談を受けて、まず取り組んだのが必要な機関を集めた支援チームづくりでした。行政の保健師、福祉課、病院、福祉事業所などに状況を伝え、それぞれがそれぞれの機関の役割を果たしてもらうように働きかけをしました。今ではその方も家を離れてグループホームで暮らし、また、障がい者施設に通所して安定した日常を送っています。

民生児童委員の皆さんには、お困りのことがあれば、行政とつながっていただき、気軽に相談をしていただければと思います。サポマネとして支援チームづくりをさせていただけます。ケースが複雑化、深刻化する前に相談していただくのが、ご本人にとってもご家族にとっても地域にとってもいいことだと思います。

長野県発達障がい情報・支援センター

という

長野県発達障がい情報・支援センター
<https://naganoken-hattatsu.info/>



木曾町三岳地区民生児童委員協議会

3つの名峰を一望する環境の中、住民同士のつながり維持に尽力

木曾町は平成17年に木曾福島町、日義村、開田村、三岳村が合併して誕生しました。木曾御嶽山、木曾駒ヶ岳、乗鞍岳という3つの山々を一望できることから名づけられたといわれる三岳地区は雄大な自然環境を誇ります。県内町村の中で最大面積をもつ上、90%を山林が占めるのも特徴です。

かつては林業やダム建設などで人口が約4500人にも膨ら



▲三岳地区民生児童委員は6人。主任児童委員は開田高原との兼務。左から3番目が藤原満芳会長。

んだそうですが、現在は千人少々と急激に減少し、高齢化率は50%を超え、子ども園と小学校の児童がそれぞれ14人と33人、中学生が18人となっています。

民生児童委員3期、そのうち会長で2期目という藤原満芳さんは、元役場職員の73歳。地区の青年団も婦人会も活況を呈していた時代を知るだけに、かつてを懐かしみながらも現実を見つめています。この10年余りを振り返り、特に感じているのが「高齢世帯、空き家、一人暮らし世帯の増加」。所有者が管理できなくなった山林の放置も気がかりです。

そんな現状の中で藤原会長が力を入れているのは「住民のつながり」の維持です。「婦人会もなくなり、祭りなどの地区活動もできにくくなっている。結婚で来た人が交流する場もないのでは大変」と、各地区で開催する年齢不問の「サロン」への参加を呼びかけます。「男性参加者が少ないので私が集めているんですが…」と藤原会長。つな



▲木曾町三岳中央部サロンの様子

がりを維持していれば、具合が悪くなった時にも誰かが気づいてくれるなど、住民同士の見守り合いができると考えています。

藤原会長の見守り活動は「常に笑顔と明るさがモットー」です。最低月に一度の訪問時は家の周りを見まわし、花が植っているなど小さな変化も見逃さずに、話題にしています。定例会での見守り活動報告でも「皆さん元気です」の報告が相次ぎました。課題は山積みでも、豊かな自然の中で温かな絆とつながりを育てようと努める皆さんです。



表紙写真紹介

おしどり隠しの滝

茅野市蓼科 明治温泉下に位置する滝。酸性の水に生えるチャツボミゴケが群生していて、まるで緑のじゅうたんの上を水が流れているようだとされています。秋の紅葉もすばらしく、一年中、心癒されるスポットです。

撮影 profile

元 岡谷市岡谷地区民生児童委員

森下 正秀さん

ドライブが大好きで、時間を作っては、ふらりと気の向くままに出掛けるのが楽しみです。行く先々のいいなあと感じた場所や風景を撮影して歩いています。



表紙写真募集!!

表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にしている方や民生児童委員の方々の地域の風景やお祭りなどの風物詩を撮った写真を募集します。

● デジカメで撮った作品の電子データをCDRIに入れて、
● 撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を
● 添えて県事務局までお送りください。
● 詳細は県事務局(026-225-1613)まで。

佐久市野沢地区民生児童委員協議会

各地区の実情も個人の顔も見えにくい大所帯。委員間の交流を深めるグループワークを導入。



▲グループワークの日は、抽選で決めたグループに分かれての信条朗読から。

佐久市野沢地区には広く知られる特徴がいくつもあります。筆頭は「ぴんころ地蔵」。「元気に長生きして寝込まず大往生」との願いを叶えようと、成田山薬師寺参道に鎮座しています。日本有数の健康長寿の里だけに説得力は抜群で、多くの参拝客が訪れましたが、コロナからの立ち直りはまだ叶っていません。浅間山、八ヶ岳、蓼科山など雄大な山々に囲まれて千曲川が流れる恵まれた環境を生かした「佐久鯉」の発祥もこの野沢地区。江戸時代から優良な米の産地として知られ、商業的にも栄

えてきました。そんな歴史と伝統の上に、各種公共施設と高校を2校有し、高速道路が至近、買い物も便利という、暮らしやすさも特徴です。

会長の重野吉祥さんは「76年間家から出たことがない」という「野沢の生き字引」かつ4期目のベテランです。ただ、37人の大所帯だけに「定例会はこちらからの連絡という一方通行」で、地域の実態把握は難しいとのこと。そこで会長に就任した今期から、連絡事項の少ない時期に「グループワーク」を取り入れることにしました。

例えば取材の日は市と地域包括支援センター職員を招き、民生児童委員のグループに1人ずつ参加。グループ構成は毎回抽選で決め、新人と先輩間、事情の異なる地区間、民生児童委員と行政サイド間等々、多様な接触と交流が生まれるようにしています。この際、討議の結果をまとめないのが、重野会長のポリシーです。「安易な答えはない」と考えるからで、より自由な話し合いの場に充足感が漂っています。



▲37人中27人が新人の今期。前列中央が重野吉祥会長。

今後への抱負は「今の社会を築くのに貢献してきた高齢者を大切にしながらも、将来を担う子どもたちへの支援を主任児童委員任せにするのではなく、全員で取り組むこと」。まずはコロナで中断していた学校との懇談会を復活させ、全員が参加しています。

地区の変化を渦中で知る重野会長にとって「新しい家ができても地元の人か移住者か分からない。個人情報保護で学校の敷居も高い」などの課題を抱えながらも、生粋の野沢人ならではの突破口を模索しています。

「民児協訪問」が動画になりました！

アナタの民児協を訪問し、スマホで動画に収めて編集、県民児連のホームページでご紹介します！

佐久市野沢地区民児協のご紹介動画



木曽町三岳地区民児協のご紹介動画



※ 紹介動画は、スマートフォンによる上記のQRコードの読み取りのほか、長野県民児連ホームページ(<https://www.nsyakyo.or.jp/minjiren/>民児協の活動状況/)からも視聴可能です。

令和6年度 民生委員・児童委員の日 活動強化週間の取組

5月12日の「民生委員・児童委員の日」、5月12日～5月18日の活動強化週間には、県内各地で様々な広報活動が行われました。来年の改選期に向けて、地域の皆さんに民生委員・児童委員について知っていただき、これからの担い手になっていただけるよう、取り組んでいきましょう。

活動事例

千曲市民生児童委員協議会

千曲市民生児童委員協議会では、5月18日(土)10時から千曲市内5カ所のスーパーでティッシュ配りをしました。「民生委員、児童委員はあなたの一番身近な相談相手です」というビラの入ったティッシュです。

今年7地区ある地区協議会に1本ずつ民生児童委員ののぼり旗を作ってもらいましたので、そののぼり旗を立て、千曲市民児協と書いてあるオレンジベストを着て、買い物に来た方々一人一人に「民生児童委員です、身近にいますので気軽に相談して下さいね」と声かけしながら配りました。



スーパーの前での広報活動

長野市三輪地区民生委員児童委員協議会

長野市三輪地区民生委員児童委員協議会では、5月13日に三輪小学校6年生59人を対象に、認知症についての学習会を開催しました。

学習会は、高齢者の見守りや相談など民生委員の活動から、身近な病気である認知症について、子ども達が理解を深め、行動につなげることで認知症の方が心穏やかに暮らせる地域づくりを願い企画しました。「認知症キャラバンメイト」の資格を持つメンバーが中心となって、食事をしたことを忘れてたり、道に迷ったりしている認知症高齢者の特徴や認知症の方たちにやさしく寄り添うことの大切さを、オリジナルの寸劇でわかりやすく子ども達に紹介しました。



寸劇でのわかりやすい広報活動

動画の放映など



長野県庁ロビーで展示・動画の放映を行いました。

県内JR7駅で動画放映を行いました。
(写真は、JR軽井沢駅)



長野県民生委員児童委員協議会連合会

8月22日に開催した理事会において、新しい役員体制が決定しました。

(新) 会長 松嶋隆徳	理事 古川友枝	理事 中山 博	顧問 椎名佑平
副会長 小平 實	理事 小島光治	(新) 理事 中澤敏子	
副会長 山浦泰子	理事 秦 嘉雄	監事 櫻井朝教	
(新) 副会長 廣瀬幸利	理事 原 秀行	監事 草深邦子	(任期：令和7年11月30日まで)

月一回の70歳以上の一人世帯の家庭を訪問する「見守り事業」はお伺いし、お互いに言葉を交わし合う大切な時間です。

民生委員を仰せ付かった初期に高齢者実態調査で各家庭を訪問しそれぞれの家庭事情を把握した折、「つなぐ」という言葉の意味を納得することができました。

心配事を抱えている家庭のその解決策を探る「葛藤」は責任感から自発的に出てくるものでした。

先日、見守り事業で訪問させていただいている高齢の御婦人が亡くなりました。非常に寂しい思いです。

亡くなる数日前には包括支援センターの保健師達が来宅し介護認定をしていました。認定後の(生活方式)身の置き方などを遠くから来ていた息子夫婦が考えていた矢先の事でしょう。それを思うと更に深い無念さを禁じ得ません。

訪問して言葉を交わすことで互いに元氣と明るさを頂くことが出来た方なのに…。

ご冥福をお祈り申し上げます。これがまさしく広い意味で「つなぐ」という大事な時間でした。

(広報委員 池田鐘三)

